

映画を愛し、平和と民主主義を支え、人間の尊厳を守った人々ここに眠る



2026. 6. 25

第110号

☎107-0062 東京都港区南青山4-18-21 南青山スカイハイツ504号 共同映画㈱内 03-6427-4425 FAX03-6434-7040

この会は、故人を納骨・合葬し、墓碑銘にその名を刻銘して、顕彰し、末永く共同して追悼します
この会は、生前予約者を会員として、会員の意思によって運営され、総会で選ばれた理事会が、日常の運営に当たります
この会は、思想・宗教の自由を尊重し、宗教・宗派の有無を問わず、映画を愛し、平和と民主主義・人間の尊厳を守ります

ホームページアドレス <https://bohinokai.or.jp/> Eメールアドレス bohinokai@gmail.com

第35回全合葬者・合同追悼会を4月29日開催

映画人の墓碑の会は、2026年4月29日、第35回全合葬者・合同追悼会を墨田区の多聞寺にて執り行いました。

今年度は初代理事長、故野原嘉一郎様をはじめ、本会発足当時より活躍された方々等、12名と生前予約刻銘者5名となり、出席者はご遺族関係者48名、既埋葬・刻銘者関係の会員・遺族の皆さん40名以上となり、約100名で執り行いました。

追悼式は、堀田敏子さん(俳優・理事)の司会によって進められ、井上南海ピアノ伴奏にて墨田川に縁のある唱歌「花」と「ふるさと」を全員合唱しました。

最初に山口逸郎代表より挨拶があり、続いて多聞寺岸田博住職の読経が行われ、参加者は住職の読経に合わせ、折り鶴を捧げながらお焼香を行いました。

読経後、岸田住職は「こうして多聞寺に集い、活躍された故人の冥福を祈り、平和と民主主義を尊び、追悼を行うことの意義」について語ってくれました。

本堂での法要後、記念写真を撮り、墓碑のある埋葬場に移り、献花を行いながら埋葬式を行いました。心配された雨に合うことなく無事行われ、埋葬式終了後、全員が庭園に集まり、懐かしい歌「今日の日はさようなら」を全員にて合唱し、感動的な追悼式を行うことが出来ました。

16	15	13	12	9	5	3	2	頁	
新聞のコラムに同感 松本平／編集後記	訃報	音沙汰あり！	会務報告	追悼文(藤野戸護・松本平・平沢清一)	ご遺族の追悼文	第35回合葬者名	山口逸郎代表挨拶	主な目次	
									多聞寺・その他の行事
									○孟蘭盆会法要
									7月11日(土) 11時
									12日(日) 11時
									8月13日(木) 11時
									○秋彼岸会法要
									9月23日(木)秋分の日 11時・14時
									○成道会・命と平和コンサート
									11月1日(日) 14時

山口逸郎代表挨拶

本日は第35回全合葬者・合同追悼会にご参加下さいまして誠に有難うございます。

私はこれまで代表理事を務めてこられた共同映画株式会社元社長の故野原嘉一郎さん、親子映画東京連絡会元会長の菅野俊雄さんから7年前に代表理事を引き継ぎ務めております、翼プロダクションで映画製作をしてきました山口逸郎でございます。会を代表してご挨拶を申し上げます。

映画人の墓碑の会は設立後35年を迎えて、現在会員は182名、賛助会員は220名でございます。墓碑には合葬者636名の多数の方々の名が墓碑銘として刻まれています。

本日は2025年3月から2026年2月迄にお亡くなりになった12名の方々の追悼・埋葬式とともに全合葬者の合同追悼会として執り行われる法要でございます。

亡くなられた方々に、今日参加の理事と会員及び参加出来なかった全会員一同謹んで冥福をお祈り申し上げると共に、哀悼の意を表します。そして、ご遺族及びご親族の皆さんに心からお悼みを申し上げます。

映画人の墓碑の会は「映画を愛し、平和と民主主義を支え、人間の尊厳を守った人々」を、本日庭園にある共同墓地へ10人の方々一人一人を顕彰・追悼し納骨され、墓碑銘のみの2人の方々と共に映画人の墓碑に刻銘致します。

今年は私にとっても多くの大事な先輩、友人が亡くなられました。共同映画元社長で、この映画人の墓碑の会の初代代表理事を務められた野原嘉一郎さん、戦後の東宝争議の時、家族会の一員として闘いに参加された、映画界の先輩であり、映産労の書記長

としても活動された映画監督の島田耕さん、元理事として活動された川村明さん、親子映画の普及活動を共にした親子映画東京連絡会副会長の高橋栄さん、日本映画復興会議の事務局長として活躍された羽瀨三良さん、私が企画製作した劇映画『翼は心につけて』の製作普及協力に尽力して下さった新日本婦人の会元東京事務局長の中村美智子さん、他の方々お一人お一人を紹介しますが、合葬されます皆さまは様々な場で素晴らしい活躍を全うされた方々です。

今後、ご遺族の皆さまには亡くなられた方の遺志を引き継ぎ、ご活動されることを心から願って、ご挨拶と致します。



多聞寺の庭園は様々な木々と石が配置され、伝統あるお寺です。その一角に「映画人の墓碑」があります。

第35回合葬者名（敬称略）

緒方 昂明 おがた こうめい 2025年8月10日没 享年97歳（分骨埋葬）	羽渕 三良 はぶち みよし 2026年1月30日没 享年89歳（分骨埋葬）	野原嘉一郎 のほら かいちろう 2025年12月30日没 享年101歳（全骨埋葬）	高橋 栄 たかはし さかえ 2025年12月29日没 享年93歳（刻銘のみ）	島田 耕 しまだ こう 2025年11月7日没 享年95歳（分骨埋葬）	上村 啓子 うえむら けいこ 2025年7月31日没 享年88歳（全骨埋葬）	石川 清 いしかわ きよし 2025年7月9日没 享年96歳（全骨埋葬）	木下 祐子 きのした さちこ 2025年6月18日没 享年81歳（全骨埋葬）	熊谷 秀雄 くまがい ひでお 2025年5月29日没 享年83歳（全骨埋葬）	田中 一子 たなか かずこ 2025年5月1日没 享年99歳（刻銘のみ）	中村美智子 なかむら みちこ 2025年3月20日没 享年94歳（分骨埋葬）	川村 明 かわむら あきら 2025年3月7日没 享年76歳（遺族不明）
---	--	--	---	--	---	---	---	---	---	---	---





ご遺族の追悼文（敬称略）

母、中村美智子

中村 元

私は（妹も）小さい頃は両親と別居して暮らしていた。私たち兄妹は田舎（秩父市）で母の姉夫婦と祖母に育てられた。姉夫婦には子どもがおらず、私たち兄妹を大事に育ててくれた。笑わずにはられない天性のユニークさを持つ伯母のお陰で寂しさを紛らわせることができた。伯父も満州帰りで、伯父の作る大陸の料理はうまかった。さて、幼い兄妹を田舎に置いて、両親は東京で活動していた。母は退職するまで15年間も新婦人本部会長。先に旅立った父は赤旗編集局の記者。家族4人で生活を始めたのは私が中1、妹が小1になったとき。毎日両親とも帰りが遅かった（どちらかというと父の方が早く帰宅した？）。そんな母も引退して地域で活動。年齢を重ねると、一緒に活動していた仲間と先立たれ、少し寂しかった。今頃はかつての仲間たちと出会い、今の社会を憂い、叱咤激励していることだろう。家族4人で最初に住んだ清瀬での民主市政誕生を喜んでいるかもしれない。



夫 熊谷秀雄のお別れ

熊谷光子

主人が亡くなって1年近くになります。

やっと落ちついた所です。主人は地域の活動に積極的に行動して皆様から頼られていました。

亡くなってから皆様に「明るくてやさしい人でしたよ」と言われました。たぶんだから私も親しく接して来たものだと思います。

長い間（21年）病気をもっていましたが、つらいとか痛いとは言わず頑張り屋さんでした。

最後の1ヶ月は大好きな家で私が看取る事が出来ました。幸せな生涯でした。



石川清から残された物

石川綾子

息を引き取り、5月9日で10ヶ月が過ぎました。緑内障から3年ほど前から失明してしまいました。読むこと書くことが一番の楽しみだったので、その悲しみ、絶望はいかばかりのものであるか。そばにいる者にとっては辛いものでした。「本は心の食べ物」と、せっせと求めた書物は膨大な量でしたが、

どの棚の何番目にあるのかも把握していました。また色の変わってしまった古い本も書いてある内容は変化しないのだからと、手放そうとはしませんでした。

今、友人の助けを借り、富山県の滑川に私的文庫を作る作業に取りかかっています。町おこしの一つになればとの願いからですが、この残された宿題は労力と時間がかかり大変です。

本人は今頃、お墓の中で朋友の斉藤晴雄さんと本談議に花を咲かせている事でしょう。合掌

父 島田 耕

父は昨年11月7日に、95歳で亡くなりました。滋賀県大津市で家族に囲まれて過ごし、楽天的で穏やかで、多くの友人に恵まれました。17歳で、東宝にいた叔父・青山順三を頼って淡路島から上京。東宝争議をきっかけに映画の世界に入り、キヌタプロダクションで青山通春監督や今井正監督作品の助監督を務め、記録映画の製作、映産労の執行部を経て関



千田 育

西に移り、日活児童映画から滋賀県映画センターへ。その後は『カメジロー沖繩の青春』の共同監督や、治安維持法の映画製作などに携わりました。ここ数年は、先に世を去った仲間たちを懐かしみつつ、映画人生で関わった人や作品について話したり執筆したりしていました。毎年の合同追悼会で友人との再会を楽しみにしており、2023年には、孫3人と一緒に参加できたことを喜んでいました。今ごろは2007年に合葬された母・けいこや友人たちに再会し、思い出話に花を咲かせていると思います。

父の好きな物

野原 正子

父、野原嘉一郎の好きな物。映画、母、4人の孫、3人の娘、ゲルダ(犬)、ゴン(猫)、ゴンタ(猫)、子ども、うな重、ピザ、甘い物、そして平和。

そんな子どもも好きの父にとって親子映画の活動は、仕事以上の存在だったのではないだろうか。日曜日を返上して全国各地を飛び歩く父は、子ども心にも恨めしくもあり、自慢でもありました。

映画人としての父の顔は、実はほとんど知りませんでした。

「映画人の墓碑の会」の理事会に父の付き添いで参加し、その活動状況を目の当たりにして初めて、父の自伝のタイトルにもある「無理せず あせらず あきらめず」の人だったのだ



なあと思いを馳せている次第なのです。

父の嫌いな物。戦争、暴力、誹謗中傷。

映画と母と子どもたちをこよなく愛する父は、天国で平和と幸せを満喫しつつ、きっと下界の情勢に心を痛めていることでしょう。

夫、羽淵三良

羽淵順子

夫が亡くなり、生前執筆した出版物の整理や皆様から頂いた心温まる「追悼」を読み、夫の映画運動や映画評論の仕事に対する「情熱」がどのようなものであったか、改めて知る思いでいます。夫は学生時代から映画批評を映画雑誌に投稿し、映画に関わることを生涯の仕事にしたいと思っていました。政治活動の中で中断していた映画評論を定年後は第二の人生として再開し、執筆活動や本の出版など精力的に活動してきました。夫が尊敬し、一緒に活動してきた故山田和夫氏をはじめ、多くの方々への支えのおかげで好きな映画に関われ幸せな時間を過ごせていたと思います。難病を患い行動が制限されるようになってからは会議や試写会には常に付き添い支えてきました。健康面の心配を優先し、夫の映画にかける想い「思考情熱」を共有したり、これまで一緒に過ごした時間を語り合わなかったことが今はとても悔やまれてなりません。



昂明兄のこと

緒方承武

今回私が合葬をお願いしたのは、昨年夏（8月10日）福岡県久留米市で亡くなった次兄緒方昂明で映画人ではありません。

私たち兄弟の父は、筑後川のほとり福岡県三井郡宮の陣村（当時）から上京して横浜税務署に入り、関東大震災の翌年1924年藤沢で長男用光を、1928年には小岩村（当時）で次男昂明が生まれます。1932年、満州国が建設されると、父は妻と子供2人を連れて新京（当時、今は長春）で満州国の税務官吏になります。末子の私（承武）は昂明兄により9つ年下1937年新京生まれです。

順風満帆かに見えた父の人生ですが、当時大陸病といわれた肺結核にかかり、旅順に転地、療養の甲斐もなく47歳で亡くなりました。

昂明兄は旅順中学（旧制）4年生で「予科練」（海軍飛行予科訓練生）を志願合格しました。

兄は予科練について「終戦のとき、青森で塹壕掘りをしていた」と言ったきりでその他話してくれたことはありません。

終戦の翌年の年末、母と私が引き揚げ（満州から帰国）して以来、昂明兄は私が高校を卒業するまで、母が93才で亡くなるまで面倒を見てくれたのです。

亡くなってから、かえって兄のことを想うことがふえたようです。





上村啓子さん遺族



木下祐子さん遺族



野原さんの思い出

藤野戸 護

野原嘉一郎さんは私にとっては本当に一番大切な映画人かもしれません。確かに共同映画の設立は初代社長の坂齋小一郎さんで、私がこの会社に入ったときの社長でした。

野原さんは映画『ドレイ工場』製作・上映委員会の事務局長、そして劇映画『沖縄』製作上映委員会の実務責任者でもあったと思います。

しかし、その頃、共同映画は第二次経営危機に陥ったときで若手社員たちの強い要望で共同映画の社長に就任して頂きました。その時、共同映画の新しい経営方針を打ち出し、三つの問題提起をして、私たち社員の意識改革をすすめていきました。「自主製作・自主上映運動に奉仕する共同映画」「親子映画運動とともに歩む共同映画」「働くもののフィルムライブラリー共同映画」この三つのスローガン掲げて発進しました。そして、何よりも社員との意見交換を重視し、新しい体制を作るために社員総会を開き、確立させていきました。対外的には、月刊「共同映画」を発刊して共同映画を支えてくださっている方々へ情報提供と支援要請をお願いしていきました。また全国のある共同映画各社の連帯強化のために、「共同映画全国系列会議」発足と全国交流集会を開催して配給網の確立強化を図っていきました。上映作品として『どぶ川学級』『小林多喜二』など営業の主軸になる作品の製作配給を持ち込み、経営を安定させてくださいました。また、翼プロダクションとの提携作品『翼は心につけて』『教育は死なず』『思い出のアン』等の上映を成功させました。特に決定的な記録映画

『さくらんぼ坊や』シリーズ全六巻と『アリス』ヒトから人間への記録』は8年の歳月をかけて青銅プロダクションと製作し、配給普及は大成を収めました。そして、経営の世代交代をはかりましたが、次世代への引き継ぎはなかなか大変でした。実際に映画製作配給各社と交渉や決定を実質的に実行していたのは野原さんだったと思います。この間、経営の経済性を安定させてきました。その一方では日本映画復興会議、独映協（現在の日本映画製作者協会）の活動も積極的に取り組んでいました。労働運動、民主主義・社会進歩を目指す勢力に主軸を置いて、仕事をしていました。そこには社会正義を貫く一本筋の通った強い意識のあった人でした。

私もなんとかその考えを引き継ぎながらこの共同映画を支えていきたいと思っています。

やあやあと挨拶しあった島田耕さんを偲ぶ

松本 平

一昨年まで毎年、遠い滋賀県から追悼会に参加していた島田耕さんが逝ってしまった。もう一度会いたかったのに残念だ。

耕さんは、「やあやあ」と言って会おうと必ず握手をした。私は、「こうちゃん」と呼んだり「島田さん」と云ったりお互いに元気なのを喜びあっていた。60年代からの付き合いだから70年以上の歳月が経っていたのだ。

出合ったのは、私が日活労組撮影所支部の執行委員になったばかりの頃だ。耕さんは、東宝で解雇され争議を経験しているフリー映画人、映産労（映画産業個人加盟組合）の専従書記長のベテラン活動家だった。

当時、日活は量産時代、仕事に没頭していたせいか、世間知らずの者も多い「社員組合」だったかもしれない。

耕さんは、日活撮影所の組合集會に何回も来て挨拶していた。そんな中で思い出す挨拶をひとつ覚えてる。「葦のずいから天井のぞく」という話であった。詳しい言い回しは忘れたが、細い一本の茎から天井をみて「これが空だ」と思ってしまう少年の童話を例に「世の中の出来事、映画産業の今」を広くみることが大切だという話だった。講釈のような話ぶりだが説得力のある話だった。その語り口は晩年も変わらなかった。

私は耕さんに教えられたことも多い。私の原稿を校正してもらうことがあった。すると原稿をバサバサと赤地で線を引き、半分以上にされたこともあった。しかし、なるほどと思うところもあり参考となった。

60・70年代、映画産業と組合活動は大荒れであった。大映の倒産、日活の倒産、組合活動の解雇事件（私も解雇された）。しかし、その時代も過ぎ労使関係が落ち着き、大映が再建された後、耕さんは、組合活動より映画の仕事に戻った。大映で働いたり「日活児童映画の関西支社」に所属して普及活動に取り組んだ。そして、数年後、大阪で「スコープ」というプロダクションを立ち上げたり。瀬長亀次郎『カメジロー沖繩の青春』等ドキュメンタリー分野で活躍。黒澤明や亀井文夫の助監督も務めた経験が忘れられなかったのだろう。最後まで映画製作にかかわり「我が人生に悔いはなし」の映画人生だったのではないか。耕さん安らかにお休みください。

映画評論家・羽瀨三良さんを偲んで

平沢清一

映画の仕事に就く前に神奈川の生協に勤めていた私は、映画ファンとして『シネ・フロント』という映画雑誌によく投稿していた。その読者欄の常連に「末松三郎」という人がいた。互いの投稿記事を引用し合うこともあり、面識こそなかったものの、心の中で意識し合う存在だった。

20年ほど前のある日、私は「末松」さんから一通の手紙を受け取った。それは「日本映画復興会議」への加盟を要請する内容だった。そこで初めて、末松さんの本名が、同会議の幹事を務める羽瀨三良さんであることを知る。日本映画復興会議は、日本映画の文化的・産業的な復興と民主的な発展を目指す団体である。私は、当時その代表委員だった映画評論家の山田和夫さんを勝手に師と仰ぎ、彼の著作の大半を読み込んでいた。山田さんは、キネマ旬報社から刊行された『エイゼンシュテイン全集』の監修者としても知られる人物だ。羽瀨さんはその山田さんとともに、復興会議やエイゼンシュテイン・シネクラブ（日本）、映画人九条の会など、映画を通じて平和や民主主義を訴える組織で中心的な役割を果たされていた。これらの集まりにしばしば参加していた私にとって、この手紙は願ってもない嬉しい誘いであり、すぐに加盟を決意した。

加盟の直後、私は憲法学者の鈴木安蔵を主人公とした、大澤豊監督の劇映画『日本の青空』を製作中だった築地の映画会社へ転職することになる。振り返れば、羽瀨さんとの出会いは、私が45歳という年齢で無謀にも映画の世界へ飛び込む大きな後押しに

なっていたと思う。独立プロの厳しい労働環境で働き始めると、羽渕さんはいつも私のことを気にかけ、何かと相談に乗ってくださった。民主的な映画運動や評論を担う後進の育成に、人一倍心を砕かれていたからに違いない。これまで苦境に陥ることも少なくなかったが、20年間なんとか映画の仕事を続けてこられた私にとって、羽渕さんは恩人のひとりでもある。

早稲田大学の学生時代から『キネマ旬報』や『映画評論』といった雑誌で鋭い論陣を張られていた羽渕さんにとって、映画評論はまさにライフワークだった。著書によれば、最初に執筆された映画批評は『キネマ旬報』1956年5月下旬号の「映画の『嘘』と『真実』の岐れ目」だったという。羽渕さんは労働運動や政治活動でも大きな足跡を残され、定年後には『シネマとたたかいは私の大学』『現在と向き合う映画と映画人』『東京私学62年闘争と私がたたかった日本映画史』など、多くの著作を遺された。著書の中で、羽渕さんは映画評論家の「政治オンチ」を嘆かれているが、社会や政治的な背景を常に踏まえた羽渕さんの批評眼は非常に貴重なものだった。これからは羽渕さんの思いを受け継ぎ、映画の民主的な発展のために、微力ながら力を尽くしていきたい。





2026.3.4(水) 第2回理事会



2026.4.15(水) 第3回理事会

会務報告

第16期定期総会後の活動は次の通りの日程にて行いました。

2025年

12月5日(金) 第16期第1回理事会役割分担、年末年始予定などを決める。

12月8日(月) 「七ふく109号」編集会議。

12月19日(金) 「七ふく109号」完成、全会員への発送と納会。

2026年

1月3日(土) 七福神めぐり。

1月7日(水) 事務所開く。

1月14日(水) 理事会新年懇親会行う。

1月24日(土) 北鳥山青葉住宅臨時総会(建替方針説明会) 久我山会館。山口逸郎代表、松本平事務局長、高間賢治副代表出席。

1月30日(金) 事務局会議。

2月14日(土) 北鳥山青葉住宅臨時総会。高間副代表出席。

2月25日(水) 事務局会議。

3月4日(水) 第2回理事会。青山生涯学習館。

今年度全合葬者・合同追悼会準備、追悼者・新会員の承認。

3月25日(水) 事務局会議及び追悼会資料会員へ送付。

4月4日(土) 北鳥山青葉住宅法定総会(委任)。

4月15日(火) 第3回理事会。青山生涯学習館

追悼会準備状況確認。当日の運営と役割分担、出席者等確認。

4月24日(金) 事務局諸準備。名札等資料作成・発送物点検。

4月29日(火) 第35回全合葬者・合同追悼会開催。約100名参加。

5月20日(水) 「七ふく110号」の原稿依頼開始。

5月30日(金) 事務局会議。

6月5日(金) 「七ふく110号」編集会議。

6月17日(水) 「七ふく110号」編集会議。

6月24日(火) 第4回理事会。

音沙汰あり! (敬称略・50音順)

赤瀬久美子 お世話になっております。春と秋のお彼岸には、お線香をあげに多聞寺さんに行ってます。

秋葉多恵子 いつも大変お世話になり、ありがとうございます。何のお手伝いも出来ず申し訳ありません。今後ともよろしく願い致します。

石黒とみ子 いつもお世話になり、ありがとうございます。申し訳ございません、欠席になってしまいます。よろしく願います。

伊藤亮二・智子 ご苦勞されている理事の皆様、ありがとうございます。私達も遠出する事が出来なくなりました。今後ともよろしく願い致します。

猪俣 香 関西におりますもので、いつもおまかせしてばかりで申し訳ありません。今井正、つや、収、貞雄が合葬していただいております、少額ではありますが、寄付させていただきます。

宇都宮寧子 地球を汚し続ける我ら人類を、果して月は快く受け入れてくれるのでしょうか? 自滅への道をひた走る地球人のひとりとして深く恥じるのみです。月を土足で花はライトアップで

…。そこに人類の進歩と美意識を誇らしく感じる風潮に、87歳の甲斐なき抵抗心は、今日も元気一杯です。

太田 僚 今回は都合があるので、そちらへ行けません。

大倉弥生 皆さんとお会いたいと思いながら、遠出が出来なくなりました。それでも今の日本と世界の情勢はあまりにもひどいと思うとじっとしていられません。話すことはできるので、又、手紙は書けるのでやれることであろうと思います。

大隅恵子 週2回デイサービスへ通っています。あいかわらず足、腰がいたくすごしています。息子は仕事が休めず、欠席いたします。

片野福子 姉の一周忌が終わりほっとしていますが、映産労働大変お世話になった島田耕さん、親子映画で仲良くなった高橋栄先生が天国へ行き大変さびしいです。京都でなんとか元気になっています。

加藤雅子・千代 野原さん、お亡くなりになられたんですね…。いつもニコニコして優しく接して下さいました。淋しいですね…。我が家も母が90歳になり、ほとんど座りきりの毎日です。気持ちだけでも明るく華やかでありたいですね。

木下央子 お世話になっていきます。今年も参加できません。残念ですが、何卒よろしく願い申し上げます。

栗原海帆子 合葬者454名、生前予約者182名、多くの方が映画を愛し 平和と民主主義、人間の尊厳を守っているのだと思います。

小山幹夫・多理子 東北も春らしくなって来ました。二人で頑張っています。

近藤高子 いつも皆様にお世話になっております。私も93歳を越えました。体が思うようにならなくなりました。そんなこの頃です。皆様によりしくお伝え下さい。

酒井英子 90歳になりました。元気にしています。まだ麻雀などして楽しんでおります。時々足が痛くなりますが、歩くようにしております。いつも欠席していて申し訳ありません

酒井 登 運営を御苦勞様です。92才になりました。品川図書館に月2回参加しています。八潮図書館で、月1回児童に紙芝居公開、笑顔を保てます。高齢者頑張ります。

進藤淳一 いつもお世話になり、ありがとうございます。会社も閉めたので何かお手伝いできるかと考えております。

関根赫子 申し訳ありません。長く歩くことが出来ませんので欠席させていただきます。

高橋 学 昨年末12月29日に逝去いたし、ご案内をいただきましたが、参加がかなわず申し訳ありません。映画人として墓碑に名を刻んでいただけること、父も喜んでいと思います。合同葬となる皆様のご冥福を心からお祈りいたします。

武井和子 いつも大変ありがとうございます。何のお手伝いもできず申しわけありません。どうかよろしくお願いいたします。

田中須賀子 毎年追悼会を開催頂き、誠に有難うございます。諸事情ありまして欠席させていただきます。よろしくお願い申し上げます。寄付金を送らせて頂きます。

田村俊介 「映画人墓碑の会」の運営では大変お世話になっております。月日が経つのは早いもので、母登喜子が亡くなって3年になります。近いうちに多聞寺の方へも足を運びたいと思っております。今後共、よろしく願います。

築山 泉 1月4日に、友人達と隅田川七福神めぐりをしました。多聞寺からスタート。映画人の墓碑の会の話をしてお参りしてきました。

鶴嶋シマ子 係の皆様には何時もお世話さまでございます。私、今の所は元気で日を送って居ります。

堤 恵子 いつも大変お世話になり、ありがとうございます。昨年初夏のあまりの暑さに熱中症になりそれ以来、ずっと後遺症に悩まされております。今まで動けた事、家事や普通に外出したりする事も今ではままならなくなっております。まさか自分がこんなに動けなくなるとは、ショックを受けております。いろいろとお世話になり、申し訳ありませんがよろしく願います。

永田喜美子 娘家族と無事に過ごしております。どうぞよろしくお願い致します。

西口あずさ 日頃より理事会の方々の活動に感謝しております。皆様、どうぞご自愛ください。

沼倉金子 良夫(夫) は老人ホームに居ります。私も足が悪いので、申し訳ございません。いつも有りがとうございます。皆様によりしくおねがいします。

野村信次 返信が遅くなり申し訳ありません。

波多野美也子 理事の皆様、いつもありがとうございます。主人の両親の介護の毎日で日々追われております。当日は伺えませんが、多聞寺さんには、別途手を合わせに訪れたく思っております。

平岩壽美代・雅代・道代 お世話になっております。4月29日は伺えませんが、日を改めて3人でお参りしたいと思っております。本日、寄付金1万円を振込みました。どうぞ宜しくお願い致します。

藤井美恵子 いつもご連絡ありがとうございます。今年こそは参加させていただこうと思っていたのですが、稽古の為、残念です。

藤川妙子 高間と病院とジム通いをしています。筋肉を落とさないように頑張っています。

藤倉 博・邦子 昨年冬の寒さが、ここ南国宮崎でも厳しかっ

た為か、今春は庭の樹木の花がいっせいに咲き、北国の春はこういう風情なのね!!と楽しんでる二人です。事務局の皆様には、いつもお世話に相成り申し訳なく、感謝の一言でございます。今回も追悼会上京出来ませず、欠席させていただきます。29日お天気に恵まれ素晴らしく、心豊かな会でありますように、ここの日向より祈念いたします。

藤原民子 いつも大変お世話になっております。4月29日は、住んでいるマンションで「雑排水管清掃」が入っています。室内での作業のため在宅してなければなりません。

近況：昨年2月に79才で初めての手術。薬の副作用もあり通院の日々です。

保刈よしゑ 年齢と共に歩くという事が大変になりました。お手数をお掛け致しますが、よろしく願っています。

前田圭子・達男 昨年は「国宝」「TOKYOタクシー」「無能の人」などの映画を見ましたが、「大長編タローマン万博大爆発」は見ると元氣になり面白いので応援上映にも行きました。その影響で、岡本太郎美術館や渋谷で行われた展覧会などにも足を運びました。今年は何を見に行こうかと思っています。足が悪いので、やって行っております。(前田圭子)

真壁浩子 よろしく願っています。

増島秀男 お世話になってます。宜しく願っています

松田容子 いつもお世話になりありがとうございます。

御山幸枝 皆様、いつもお疲れ様です!!

矢島正明 相変わらず歩行困難ではありますが、年に一度の語りの舞台だけは続けております。

矢島るみ子 いつもお世話様です。

矢野 徹 歳をとり、脚腰も悪くなり、外に出るのも億劫になって合同追悼会には出られません。会が滞りなく行われて、貴

会が今後益々発展して行くことを願っております。

山川英明・まり ようやく暖かくなり、ほっとしております。墓碑の会の皆様には、何かとお世話様でございます。おかげさまで、夫と共に大変元氣で過しておりますので、ご安心下さいませ。

藤村メイ子 母(山岸昭枝)は、3月で98歳になりました。認知症となり、施設に入所しておりますが、食欲があり元氣にしております。

そのほか以下の方々からもコメントはありませんが、返信をいただきました。(敬称略)

有山一子・石堂彰彦・石堂真理子・伊東範彦・岩佐周一
大石元子・上甲まち子・木上清敏・小島禮子・小谷稔子
小谷江・齋藤雅子・齋藤禮子・高橋千鶴子・高橋理香
武市潤一郎・武田一男・田中良治・津須典子・津須亮子
土屋幸子・長井伸介・平田志津子・本田正・前島潤一郎
松浦邦子・三田村律子・馬淵純子・横田元一郎・吉岡千恵子
吉田理恵

計 報

関谷先弘 せきやもひろ さん 2026年3月25日 享年89歳

小竹伊津子 こたけいつこ さん 2026年3月30日 享年95歳

永橋晃枝 ながはてるえ さん 2026年5月26日 享年83歳

新聞のコラムに同感

松本 平

全合葬者・合同追悼会の準備を始めた2月末、トランプ大統領領によるイランへの爆撃が始まった。この間沢山の命が奪われた。多くの国が、国際法違反だと批判し、グテーレス国連事務総長が「大国のリーダーが世界をかき乱して、世界は途轍もない機能不全に陥っている」と警告した。追いつめられたトランプは二転三転し、ようやく停戦に漕ぎつけた。しかし、イスラエルはレバノンへの爆撃を続けている。日本政府はトランプへの忖度か、この戦争への態度はいまいのまだ。

その様な中、五月の中頃だったか。ある新聞のコラム欄に印象的な記事があった。イギリスのBBCがジェノサイドの中で奮闘している医師たちを撮ったドキュメンタリーの放映を中止したことにへの批判だった。この作品は、観ればイスラエルが加害者であることが誰でも分かるらしい。しかし、BBCは、「中立的立場」ということを理由に中止したというのだ。執筆家師岡カリナ氏は「聞こえはよいが、大切なのは中立より正義だろう」と批判し「中立もヘチマもない」と怒っていた。私も中立という立場の曖昧さが気になっていた時だった。確かに、中立的視点は重要だ。しかし、中立的という曖昧さを利用して悪用されていることもある。同じ数日後のコラムに、沖縄の辺野古で起きた教師と高校生の悲しい事故を捉えて「教育の中立」を理由に平和教育を制限しようとしているという。また、昨今の放送でも「放送の中立性」を理由に、表現の自由を規制する動きもある。私の目に留まったコラムは外国の例だったが「中立もヘチマもない」と「江戸弁」のような言葉を使った批判にスカッとした気分になり同感だった。

編集後記

○高間賢治 5月には2年ぶりに映画の撮影をしながら、今回は3度目の「遺影出演」。1度目は『シェアハウス』で吉行和子さんの亡夫。2度目は『鏡の中の笑顔たち』で松原智恵子さんの亡夫。そして3度目は浅田美代子さんの亡夫。いずれも喜多一郎監督作品だ。何度か一緒にいた人は脇役に回った教授役の竹中直人さん、母親役の田中美里さん、未亡人役の浅田美代子さん。メインキャストの大学生役は全く知らない若い人ばかりで僕の孫の世代だ。でも一人は大河ドラマ『豊臣兄弟』で石田三成を演じ、もう一人はNHKの朝ドラで主役の妹を映じている。これからの躍進を期待したいところである。

○堀田敏子 今回も「音沙汰あり！」の出欠葉書のコメントの打ち込み作業に先ず取り組みました。3回目ともなると、慣れてスムーズにパソコンに打ち込むことが出来ましたが、「慣れ」に気を付けないといけないと、突然そんな想いに駆られました。

ところで、第35回全合葬者・合同追悼会において、初めて司会を担当させて頂きました。事務局のパソコンに前年度の合同追悼会の式次第が保存されていて、それをプリントアウトして下さり、それを参考に当日の構成台本を作成致しました。

追悼会は4月29日の昭和の日で、ゴールデンウィークの始まりであります。また、ぶっつけ本番は、役者人生のなかでもやったことがないので、合同追悼会が行われる多聞寺の春彼岸の3月21日、その日は弘法大師正御影供でもあり下見を兼ね、その法要に参列させて頂きました。そして、法要後、ご住職様に、合同追悼会での司会をさせて頂くことをご報告させて頂きました。